

サントリーホールディングス株式会社 2016 年 12 月期決算 説明内容

説明者：サントリーホールディングス株式会社

代表取締役社長 新浪剛史

平素より私どもの活動に多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本日は、2016 年決算発表に際して、サントリーグループの現状について、私から簡単にお話をさせていただきます。

①当期業績について

- 2016 年度、サントリーグループの売上高は、2 兆 6,515 億円、前年同期比 99%でしたが、為替の影響を除いた為替中立では 104%と順調に成長しました。
- 営業利益は、1,980 億円、前年同期比 107%、経常利益は、1,758 億円、113%となり、いずれも過去最高を更新することができました。
- グローバル企業の指標に用いられる、のれん等償却前の営業利益も 2,600 億円規模に拡大し、きっちりと利益を創出できる体制となっています。
- 私どもは、「飲料・食品」と「酒類」という、グローバルに展開する 2 つのコア事業を有していますが、この 2 つのセグメントがともに好調に推移しました。
- 特に、ビームサントリー社の統合については、私自身、最大の経営課題と認識しており、着実に成果も出て参りました。既存事業ベースの売上高は、前年同期比一桁台半ばの伸びを実現し、利益面でも酒類セグメントにおける営業利益の大幅増を牽引しました。当期のビームサントリー社は、主戦場であるアメリカ市場ではもちろん、日本を含むアジアや欧州でしっかりと成長を果たしています。国内酒類事業においては、「ジムビーム」の大躍進、RTD のさらなる伸長など大きな成果がありました。
- また、熊本地震で被災した九州熊本工場では、皆様には大変ご心配をおかけしましたが、全社一丸となって復旧に取り組み、11 月には「ザ・プレミアム・モルツ」の仕込を再開、12 月には樽生を出荷、さらに先月には缶の出荷を再開することができました。お蔭様で順調に復旧作業が進んでいます。
温かいご支援をいただき、改めてお礼申し上げます。
- 一方で、ビール事業は、減収となり課題を残した一年でありました。
ビール事業は、サントリーグループの挑戦の旗頭であり、まさに“やってみなはれ”の象徴です。本年は、3 月に大刷新する「ザ・プレミアム・モルツ」を成功させることで、必ず大きな飛躍を実現します。

②2017 年の戦略

- 2017 年は、課題のビール事業を立て直すため、全社を挙げて新しくなった「ザ・プレミアム・モルツ」に最大注力しますが、この全社の一体感というものが、大変重要になってくると見えています。
- ビールでもウイスキーでも、飲料でも、分野を問わず、サントリーグループが、一体となって、まさに“**One Suntory**”のコミュニケーション・アクションがとれることが大きな武器になります。
- 2 年前に私が提唱し、開始したマトリクス経営、これは機能毎の責任者である **CXO** がセンターとなって、海外を含めたサントリーグループの各社と連携を密にし、課題解決に当たるスキームですが、着実に成果が出てきています。
- 特に、ビームサントリー社との一体感はますます高まってきており、生産技術や品質向上に向けての取組みはもちろん、共同で商品開発も進めております。
ウイスキーは時間がかかるビジネスですので、現時点ではまだ具体的なお話はできませんが、どうぞご期待ください。
- 4 月 1 日には、新会社 サントリー**BWS** 株式会社を立ち上げ、国内酒類事業トータルでの戦略立案と実行がスムーズにできる体制とします。さらに、サントリービジネスエキスパート株式会社を機能別に 3 つの会社に分け、経営判断のさらなるスピードアップを図っていきます。
- 2017 年、サントリーグループは、飲料・食品と酒類という 2 つのコア事業を柱に据えながら、特に「ザ・プレミアム・モルツ」の成長を核に、全社でさらなる成長を目指します。

今後とも皆様のご指導・ご支援、どうぞよろしくお願い致します。

説明者：サントリーホールディングス株式会社

専務取締役 肥塚真一郎

平素から私どもの活動に対して多大なご支援を賜り、心より御礼申し上げます。
サントリーホールディングス（株）の2016年12月期連結決算についてお話させていただきます。

①当期業績について

- 2016年度12月期、サントリーグループの業績（1ドル＝109円）は、
売上高は、2兆6,515億円、前年同期比98.7%、
為替中立で、前年同期比103.5%となりました。
営業利益は、1,980億円、前年同期比107.0%
為替中立で、前年同期比112.3%となりました。
営業利益、経常利益はともに、4期連続過去最高を更新しています。
- グローバル企業との比較に有効な指標である、のれん等償却前営業利益では、
2,643億円、前年同期比103.7%となりました。
- 親会社株主に帰属する当期純利益については、スペインのブランデー・シェリー事業の譲渡や、中国ビール事業の合弁解消など、当期に実行した複数の事業譲渡を特別利益に計上しているほか、海外子会社の資本関係の整理・再編による影響もあり、当期は一時的に大幅増となっています。

②事業の動向について

それでは、セグメントごとに簡単にご説明します。

■飲料・食品セグメント

昨日サントリー食品インターナショナル（株）から報告いたしました通り、当期は事業基盤の強化に取り組み、国内、海外ともに着実な成長を実現しています。

売上高は、1兆4,009億円、前年同期比102.1%

為替中立で、前年同期比107.7%と順調に推移しました。

営業利益は、1,132億円、前年同期比102.0%

為替中立で、前年同期比110.0%と2桁の伸びを実現しました。

■酒類セグメント

売上高は、為替影響等もあり、9,887億円、前年同期比96.4%

為替中立で、前年を上回る動きとなりました。

営業利益は、883億円、前年同期比112.7%

為替中立で、前年同期比113.6%となりました。

特に、ビームサントリーの事業の好調が寄与したことに加え、さまざまな分野で統合シナジーが着実に現れていると見ています。

▽ビームサントリー社（日本を含む）は、為替影響・特殊要因を除いたオーガニックでの比較では、売上は1桁台半ばの成長となり、主力のアメリカ市場に加えて欧州やアジアで「ジムビーム」「メーカーズマーク」といった主力ブランドが成長を牽引しました。また、当期は、ウイスキーの代表的な解説書である「ウイスキーバイブル」でビームサントリーの「ブッカーズ ライ」が世界最高のウイスキーに選ばれました。サントリーウイスキーも「響 21 年」が世界的な酒類コンテストで最高賞を受賞するなど、サントリーグループの高い品質とものづくりへの姿勢が評価されたことは、今後のビジネスの大きな礎になるものと考えています。

国内（サントリースピリッツ（株））では、当期は「ジムビーム」が前年比4割近い伸びを見せ、RTD やハイボール缶も大幅に伸長するなど、スピリッツ事業で大きな成果があげられました。

▽サントリービール（株）は減収となりました。そのなかで「ザ・プレミアム・モルツ」は、その品質の高さをしっかりと訴求し、昨年、秋（9月）以降は前年を上回る動きとなりました。「ザ・プレミアム・モルツ」のポテンシャルを再確認しました。この1月も前年比で2桁増となり、本年3月に実施するリニューアルを契機に、サントリーグループが一丸となって、こうした動きをさらに加速させていきます。また「金麦」「金麦〈糖質75%オフ〉」は過去最高の販売数量となりました。

▽サントリーワインインターナショナル社は、国内のワイン市場が101%と推移するなかで、市場を大きく上回る107%の伸び(数量)を達成しました。

③財務体質の強化について

- 当社の財務体質について申し上げますと、当期の EBITDA は 3,522 億円、前年同期比 102.3%となりました。昨年に比べて約 80 億円のプラスとなり、安定したキャッシュ創出を継続しています。
- 実質借入金についても、着実に減少しています。特に当期は、為替影響、事業売却など、一時的な要因もあり、2,140 億円の減少となりました。こうした特殊要因がなくても、毎年 1,000 億円程度はコンタントに減らせるものと見ています。
- 当期の実質借入金の減少によって D/E レシオ（ハイブリッド考慮後）は1倍を切るレベルまで財務体質は大きく改善しています。

④2017 年の見通しについて

- 2017 年度の世界経済は、不確実な状態が続くと見込まれますが、サントリーグループは中長期的な目線で持続的な成長を目指して参ります。
- 2017 年は、既存事業の基盤強化に重点を置き、特に3つポイントに注力していきます。

▽ひとつ目は「ブランド投資の強化」です。不確実な時代だからこそ、安定した基幹ブランドの存在は重要性を増します。「ザ・プレミアム・モルツ」「ジムビーム」「メーカーズマーク」「天然水」「BOSS」「伊右衛門」などの基幹ブランドを長期的な目線でさらに磨いていきます。同様に将来に向けた設備や原酒への投資を継続します。

▽ふたつ目は、R&Dの強化です。メーカーにとって、将来の成長の原動力となるのがR&Dによる優れた成果です。2015年に、京都けいはんな地区に「ワールドリサーチセンター」を竣工し、現在活発な研究開発活動を行っています。本年は「健康」「美味」をキーワードに、サントリーにしかできないオリジナリティと、将来の付加価値創出につながる研究を一層強化していきます。

▽みつつ目は、「働き方改革」です。サントリーグループの成長は優れた人材が実現していきます。ポイントは、一人ひとりの業務を革新して、より生産性の高い仕事をすることです。働きやすい人事制度やIT技術を活用して創出した時間で、付加価値のある仕事をする。個人の生活を大切にしながら、仕事でしっかりと成果を出していく。それらを会社の成長につなげていきたいと考えています。グローバルでの人材交流の加速も、働き方改革につながるものと考えています。

■また、本年もサントリーの創業精神である「利益三分主義」に則り、積極的なCSR活動を継続展開して参ります。本年には30周年を迎えたサントリーホールの改修工事を行い、今後も長期的な文化活動を継続強化していきます。また、日本国内で展開している環境への取組みについては、新たに海外グループ会社での展開を開始しており、米国ケンタッキー州における水源保全活動をしっかり進めて参ります。

■サントリーホールディングスの2017年12月期の業績は、1ドル=110円の想定で、売上高は、2兆6,900億円、前年同期比101.5%、為替中立で101.9%
営業利益は、2,010億円、前年同期比101.5%、為替中立で102.7%
親会社株主に帰属する当期純利益は、710億円、前年同期比58.4%、2015年と比べても約1.5倍を計画しています。

■のれん等償却前営業利益は、2,670億円、前年同期比101.0%を計画しています。

以上、私からの説明とさせていただきます。今後とも、ご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。本日は、ありがとうございました。

以 上